



特集 所信表明・令和7年度市政運営方針

「日本一前向きな市へ！」



みんなで描こう なわての未来

四條畷に暮らす皆さんの暮らしを守り、より豊かで魅力あるまちにしていけるために
この1年、市がどんなことに取り組むのかを紹介します。

銭谷翔市長が2月定例議会で
所信表明および令和7年度市政運営方針
を説明しました。
抜粋・要約して掲載します。



所信表明・
令和7年度
市政運営方針
全文はこちら



当初予算の説明
(7ページにも掲載)



市民の皆さまの温かく力強い信任を賜り、第6代四條畷市長に就任いたしました。市長としての重責を担う立場となり、身の引き締まる思いとともに、大きな使命感を抱いております。市民の皆さまからお寄せいただきました信頼と期待に応えるべく、責任と覚悟を持って全身全霊を尽くし、職責を全うする決意です。

私は、本市の職員として、企画、広報、財政と市の中枢でまちづくりに携わり、財政構造の健全化を進めるなか、「未来への投資」に向けた各種取り組みの一端を担ってきました。その最中、前市長が退任することを表明し、その後継者を全国公募するというニュースを耳にしたとき、「自分たちのまちを自分たちの手でよくしていこう、そうした思いを持った人を増やしていきたい。そんな思いでこのような取り組みを始めたのではないか。」と思うに至り、他人任せになっている場合ではないと考え、挑戦の一步を自ら踏み出すべきだと決意し、生まれ育った四條畷市をさらに魅力ある市にするため、市長選に挑むことを決断いたしました。

「みんなで描こうなわての未来」この言葉には2つの思いを込めています。1つは「継承」です。本市が市民とともに築いてきた「対話によるまちづくり」をこれからも継承しながら、「市民中心のまちづくり」を進め、市民主体の取り組みを行政が支えることで、市民一人ひとりが主役として活躍できるまちづくりをめざします。もう1つは「発展」です。「ともに未来を描く」という思いを致しながら、地域の課題や希望を共有しつつ、ともに具体的な未来像を描くことをめざします。

本市が、日本一前向きな市として発展していく未来を描き、市民一人ひとりが希望を持てるまちを実現するため、市長として、これまでの理念をしっかりと継承しつつ発展へとつなげてまいります。多様な市民の「挑戦」する心、ひいては未来を担う子どもたちの夢や情熱を応援するとともに、「安全、安心」に希望を持って暮らせる四條畷市を実現してまいります。

重要施策

挑戦を応援

1

いくつになっても
活動したくなる“なわて”

1.3 億円

いつまでも健康で自分らしく

40歳以上の市民を対象に、健康アプリを通じて1日の歩数や健康イベントへの参加、健(検)診の受診など、個人の健康づくり活動に対してポイントを付与する「なわて健康プログラム」をスタートします。健康活動で貯めたポイントはデジタルギフトなどの特典抽選に利用できるなど、健康アプリ内のさまざまなコンテンツを通じて健康への関心を高め、市民の健康寿命延伸につなげます。



市民活動の新たな拠点を整備

多世代が集い、コミュニティの輪を広げられるように、旧四條畷南中学校敷地を活用し、魅力・活力・賑わいに満ちた空間を整備していきます。コミュニティ複合施設の整備のほか、ボール遊びができる公園や多機能型体育館、周辺環境の整備など、防災機能を備えた幅広い世代が集える公共施設整備に向けて庁内の議論を進めていきます。



挑戦を応援

2

働く世代が
元気あふれる“なわて”

0.7 億円

まちのにぎわいを生む事業活動支援

市内の意欲ある事業者や創業希望者を応援するため、市独自の取り組みとしてスタートした「なわて事業者チャレンジ支援制度」は5月末に現行の補助期限を迎えます。これまでの利活用に関する意見を踏まえ、より効果的な事業者支援につなげるための改善を図り、将来のまちづくりを担う人材が働きやすい、起業しやすい環境整備に向けた支援を行います。



意欲ある人の学び直しを後押し

キャリアアップをめざす大人を支援するため、令和6年10月からスタートした「大人の学び直し支援事業」では、学び直しにかかる費用を補助するキャリアアップ補助金による学び直し支援を実施しています。2年めとなる今年度は、補助金の拡充に加え、学習を終えた人へのフォローアップや学習者同士の情報交換の場の創出など、さらなる環境充実を図ります。



「学び直し支援事業」のイベントも開催

子どもが夢や目標を持てる“なわて”

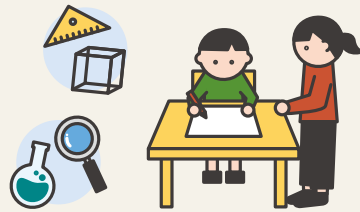
4.8 億円

より良い学習環境を整備

第二期GIGAスクール構想の進展のため、市内小中学校の児童生徒と教員が使用するタブレットをより機能的な端末に更新し、学校内により良い通信環境を整備します。教員のICT活用指導力向上のための研修を充実させます。

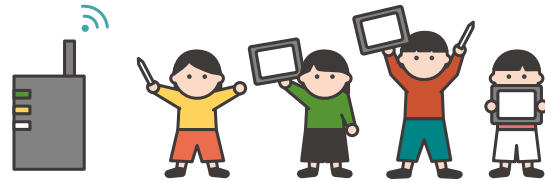
教員が児童生徒と向き合えるように

授業や行事の準備補助などを支援する教員業務支援員を8校に、また教頭マネジメント支援員を1校に配置します。教員が児童生徒と向き合える時間を増やし、教材研究などに注力できる環境を整えます。



コラム | GIGAスクール構想とは？

教育現場でのICT環境を整備・活用し、より充実した学習活動の実現をめざすために国によって示された構想。市内小中学校では令和2年度から1人1台ずつタブレットが整備されました。



人とまちと自然がつながる“なわて”

900 万円

住んでみたい、住み続けたいまちのために

都市の効率化や持続的な公共交通ネットワークなどをめざし、都市計画に関する基本的方針をまとめ、平成29年に策定した都市計画マスタープランについて、人口減少や高齢化が進む社会情勢の変化に対応し、“なわて”の強みを活かした未来のまちづくりのため、計画の改訂に取り組めます。



忍ヶ丘駅前整備に向けた検討

市唯一の駅であるJR忍ヶ丘駅。市の玄関口にふさわしい、多くの市民が集い、賑わいが創出される空間となるように、駅前の整備に向けた取り組みをスタートします。今年度は、現状の課題分析、市民ニーズや民間事業者の意向調査などの研究に着手。その後、市民や民間事業者主体による駅前広場を活用した社会実験などの展開を予定しています。



現在のJR忍ヶ丘駅前（東側）

いのちと生活を守る“なわて”

200 万円

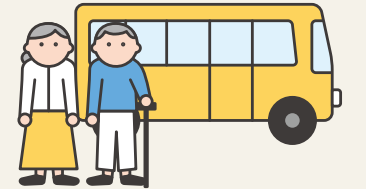
誰もが安心して暮らせる共生社会へ

生活困窮者の相談を受け止め、つながり続ける地域共生社会の実現に向けて、地域生活での課題を関係者・関係機関が一丸となり受け止める「地域生活困窮丸ごと支援会議」を拡充し、重層的支援体制を構築します。



持続可能な公共交通の確立に向けて

人口減少による公共交通の利用者が減少する一方、高齢者の免許返納後の移動手段の確保・民間バス会社の担い手不足などのため、地域における公共交通の重要性が高まっています。地域・世代に応じた持続可能な交通手段の確立に向けた調査・研究を行います。



なわてみんなで頑張ろう商品券の配布

エネルギー・食料品の物価高騰により影響を受ける市民や地域経済を支えるため、国からの重点支援地方交付金を活用し、全ての市民を対象に、「なわてみんなで頑張ろう商品券」を配布します。

※詳しくは、今後の広報誌などでお知らせします



子育て世代が笑顔で過ごせる“なわて”

4.3 億円

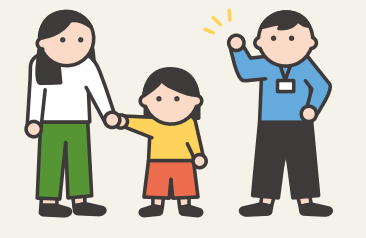
民間園で働く保育士の処遇改善

保育士不足による待機児童・保留児童解消に向けて、市内の民間保育施設と協働で市独自の支援を実施します。勤務年数に関わらず、正規職員の保育士などに月4万円（内、1万円は各保育施設負担）、年間最大48万円の処遇改善を行い、保育人材の確保と定着につなげます。



切れめない子育て支援体制の強化に向けて

子育てに困難を抱える家庭をより切れめなく漏れなく支援するために、令和9年度に「こども家庭センター」の機能を構築することをめざします。今年度は、母子保健・児童福祉の連携・協働をさらに深めながら、一体的な支援を実施するための方法について、検討を進めます。



公共施設の再編

地域ニーズに沿った施設再編と教育環境の整備

これまで議論を重ねてきた旧四條畷南中学校、市民総合センター・保健センター敷地および市庁舎新棟(子育て関連施設)の再編プロジェクトは、市民の皆さんの意見を取り入れながら、基本計画・基本設計・実施設計

を着実に進めていきます。また、将来を見据えた教育環境の整備に向けて、学校施設の地質調査や耐久度調査も実施します。

田原の活性化

次世代につなぐ、交通課題解消と農空間の創出

田原地域の移動手段の課題解消のため、令和6年度からスタートした自動運転車「たわらコネクトカート」。自動運転レベル4による完全自動運転実現に向けて、実証実験を重ねていきます。また、下田原地域で進めてい

る「ほ場整備」は、農地の区画や農業用道路・水路などを整備し、魅力ある農業・農空間を次世代に継承するための取り組みです。地元農業者や大阪府などと連携し、今秋をめどに整備工事に着手します。

※自動運転レベル4…特定条件下での完全自動運転

※令和7年4月時点は、ドライバーによる操作のもと部分的に自動化された自動運転レベル2で運行中

4.3 億円

0.1 億円

Pick Up!

その他の主要施策

ひとづくり

教職員の指導力向上

接遇やコーディネート力向上に向けた研修に加え、デジタルスキル向上や児童生徒の主体性を支援する指導力向上のための教職員研修を実施します。

デジタルの力で英語力向上へ

中学生の英語力向上のため、AIによる音声自動採点や英文読み上げ機能を持った英語学習アプリを中学校の英語授業で導入します。

まちづくり

災害に強いまちづくり

旧耐震基準の木造住宅を対象に、耐震改修工事の補助限度額を引き上げます。既存住宅の耐震性を高めて、災害に強いまちづくりを進めます。

より安全・安心な通学路へ

通学路の安全対策として設置している防犯カメラ。令和6年度に設置要網を整備しました。学校・関係機関と連携しながら、より安全・安心な通学路をめざします。

しくみづくり

聞こえに不安がある人に寄り添った窓口に

加齢などで耳が聞こえにくい人が不安なく窓口で相談できるように、軟骨を振動させて音声を伝える集音器を福祉関係の窓口に設置します。

不育症で悩む人を応援

不育症に悩む人の経済的負担を軽減するため、保険適用外となる検査・治療費用の一部を助成します。安心して治療し、出産につなげることができるよう支援します。

特集 令和7年度 当初予算



当初予算総額 416億5740万円

令和7年度の当初予算額は、一般会計、4特別会計、下水道事業会計を合わせた総額が416億5740万円で、前年度当初予算総額と比べ7.0%、31億1926万5千円の減となりました。これは、介護保険特別会計において、前年度予算にはくすのき広域連合の残務処理に伴う予算分

が約48億7000万円含まれていましたが、本年度はその要素がなくなり、本市の介護保険事業のみの予算となることから、当該特別会計予算が前年度に比べ46.8%、47億9213万2千円の大幅な減となったためです。会計ごとの当初予算額は総括表を見てください。

一般会計当初予算額 前年度との比較



●扶助費

前年度比 12億2181万6千円(17.3%) 増加
(障がい福祉サービスにおける給付費の増などによる)

●普通建設事業費

前年度比 2億8300万円(13.5%) 増加
(市庁舎新棟の実施設計にかかる費用の増などによる)

●人件費

前年度比 2億8304万2千円(7.4%) 増加
(地域手当の増などによる)

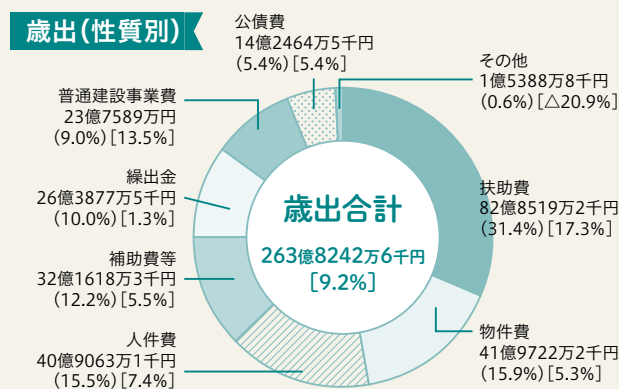
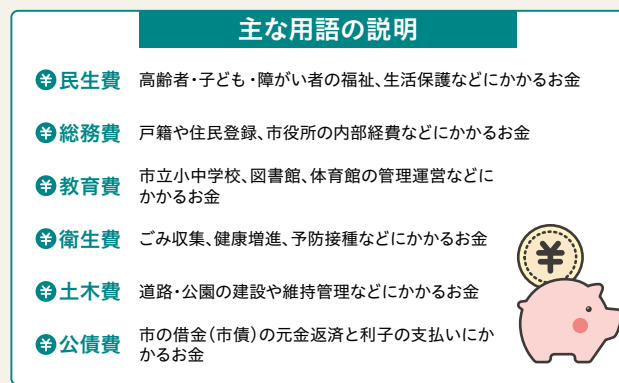
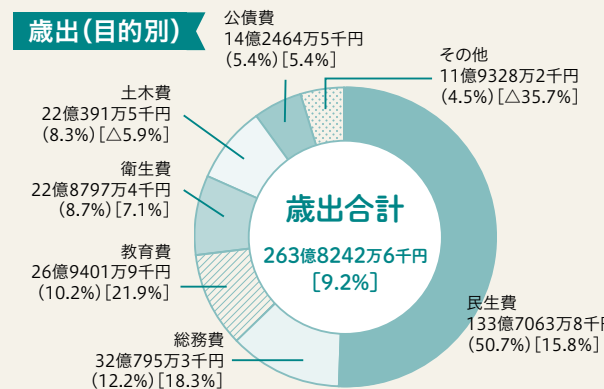
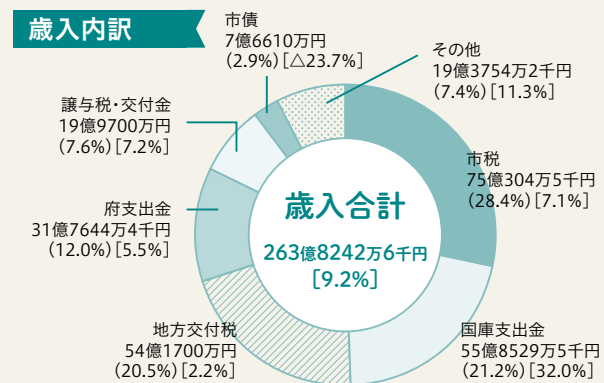
●物件費

前年度比 2億1062万5千円(5.3%) 増加
(学習系端末の更新やなわてふれあい教室運営の委託化による費用の増などによる)

22億3232万6千円(9.2%) 増加 合計263億8242万6千円

一般会計当初予算 内訳

※()は構成比率、[]は対前年度増減率



▽令和7年度当初予算総括表		会計ごとの当初予算額はこの表を確認してください。		
区 分	令和7年度 A	令和6年度 B	増減額 C:A-B	増減率(%) C/B×100
一 般 会 計	263億8242万6千円	241億5010万円	22億3232万6千円	9.2
国民健康保険特別会計	53億7272万5千円	56億3583万4千円	△2億6310万9千円	△4.7
介護保険特別会計	54億4688万1千円	102億3901万3千円	△47億9213万2千円	△46.8
後期高齢者医療特別会計	11億3009万8千円	10億9582万4千円	3427万4千円	3.1
土地取得特別会計	4495万6千円	4506万2千円	△10万6千円	△0.2
小 計	383億7708万6千円	411億6583万3千円	△27億8874万7千円	△6.8
下水道事業会計	32億8031万4千円	36億1083万2千円	△3億3051万8千円	△9.2
合 計	416億5740万円	447億7666万5千円	△31億1926万5千円	△7.0